

# AFICAT ニュースレター(日本第5号)

2022年10月19日発行

第5号では主に7月下旬から8月下旬までのタンザニア、コートジボワール、国内における活動についてご紹介します。タンザニアは現地で開催された農業祭への出展したほか、有識者・メディア関係者が現地視察に訪れました。コートジボワールではPRORIL2で導入された機械を取材しました。国内では食と農の協働プラットフォーム(JiPFA)が開催され、AFICAT 関連の発表が行われました。

## タンザニアでナネナネ(農業祭)に参加

8/1~8の8日間、タンザニア国内8カ所で開催された農業祭(通称ナネナネ)で、AFICATはArusha会場の農業省ブースの一角に出展しました。本邦企業に用意していただいた製品紹介動画の上映や、冊子、チラシなどの配布・掲示を行い、本邦企業及び製品、AFICATの紹介を行いました。来場者からは、「今回紹介されている製品はどこで買えるのか、値段はいくらなのか」や、「中国製品は安い品質に少し不安がある。日本製品は、価格は高いが信頼できる」、「動画やチラシでなく、実際に機械が見たい」という声が寄せられました。現地では「日本製品は高い」という声をよく聞きます。このような農業祭を通じて、AFICATとしても、日本製品の耐久性や操作性の良さ、それらを踏まえた費用対効果の高さなど、まずは認知度を高める活動を継続していきたいと考えています。



AFICAT ブースの様子。次回はいっとも多くの本邦製品を紹介したいと思えます。

また、機械を自分の目で見たい、直接話を聞いて情報を得たいという方もいました。農業祭で農業機械を展示しているブースでは、展示会価格として値引きし

た価格を提示しているところもありました。



他ブースの様子。(上:インド製トラクター 下:粉碎機など)

## 有識者・業界誌各社がタンザニアを視察

7/30~8/7の9日間、AFICATの有識者と業界誌関係者によるタンザニア現地視察が行われました。[2019年に実施した調査](#)で日本国内のコメに関する農業機械メーカー約140社にアンケートを実施したところ、回答を得られた112社の内、サブサハラアフリカへの進出意向がある企業はわずか11社(10%)と少ないことがわかりました。業界関係者もアフリカを訪問する機会があまりないことから、業界関係者及び業界誌の方々に、アフリカの現状を視察、取材していただき、本邦関係者に現地情報を周知していただくことで、サブサハラアフリカやAFICATへの関心を高めていただくことが目的です。AFICAT有識者と視察に参加した業界誌の方々は下記表の通りです。



AFICAT 有識者	
所属先	氏名
<a href="#">(株)新農林社</a>	岸田義典氏
<a href="#">(一社)日本農業機械化工業会</a>	田村敏彦氏
<a href="#">(一社)日本農業機械化協会</a>	藤盛隆志氏
<a href="#">(大)新潟大学</a>	長谷川英夫氏 ※視察は不参加
<a href="#">JICA 国際協力専門員</a>	大石常夫氏
視察に参加した業界誌	
所属先	氏名
<a href="#">(株)農経新報社</a>	遠藤和美氏
<a href="#">(株)国際農業社</a>	佐藤博文氏

上記のうち視察に参加した6名に加え、AFICAT 団員 3 名、合計 9 名でタンザニア国内を視察した。



灌漑地区の農民たちとの協議の様子。

土日が移動日のため、実際の現地視察は 5 日間でしたが、4 つの州(Arusha 州、Kilimanjaro 州、Tanga 州、Pwani 州)を訪問。計 5 つの灌漑地区を視察し、各農民組合との協議や圃場、施設見学、農業祭(ナネナネ)の見学などを行いました。



代掻き機で代掻きした KATC の圃場を見学する様子。

今回訪問した灌漑地区では、これまで様々な国の援助で導入された機械や施設の現状も見ることができました。機械や施設を有効活用している灌漑地区もあれば、壊れた機械の修理ができず、使えなくなっているところもあり、現地の人々の悩みや苦勞、成功事例を聞くことができました。帰国後、視察の様子は農経しんぼう、農村ニュースといった業界誌で紹介されたほか、後述する 8 月 10 日開催の JIPFA で報告しました。



ロータリーを修理する様子。ドライブギアが欠けていた。(赤丸)



ミッションが修理できずそのままになっていたコンバイン。(赤丸)



メディアによるタンザニア視察紹介記事

左:農経しんぼう記事

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/glkrjk0000063oo-att/20220815.pdf>

右:農村ニュース記事

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/glkrjk0000063oo-att/20220823.pdf>

AFICAT ホームページでは今回の視察関連の記事一覧を紹介しています。

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/news.html>

## JiPFA にて活動報告を行いました

8/10 に JICA 食と農の協働プラットフォーム(JiPFA) 第 2 回アフリカ農業分科会がオンラインで開催され、AFICAT の活動報告と有識者によるタンザニアの視察報告等が行われました。活動報告では、各国の政府機関と AFICAT の実施体制や活動開始について合意形成に至ったこと(一部は継続)や、AFICAT チームの支援で企業が開催したセミナー、デモ等のパイロット活動の様子が共有されました。有識者からは、現地に滞在してみて感じたタンザニアの治安の良さや更なる農業機械普及の余地、タンザニア周辺国と合わせた広域での農業機械市場展開の可能性、農業機械に関わる現地側の人材育成の必要性等、タンザニア視察を経て感じた現地での農業機械普及の課題や今後の提案等について発表がありました。視察に同行した業界誌担当者からは視察に関する記事掲載が告知されました。AFICAT を活用し、既に現地でセミナー、デモ活動等を展開する本田技研工業(株)さま、(株)ケイト科学技術研究所さまからは、AFICAT への今後の期待をご発表頂きました。今後も JiPFA を活用し、AFICAT 活動に係る情報発信や産官学関係者との意見交換を行って参りたいと思います。

【JiPFA アフリカ農業分科会のウェブサイト】

[https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/ji-pfa/africa\\_agri.html](https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/ji-pfa/africa_agri.html)

## サタケの光選別機のデモ取材しました

コートジボワールで実施中の JICA「国産米振興プロジェクトフェーズ 2」(PRORIL2)に(株)サタケさまの光選別機 FMS-2000 が導入されました。AFICAT では PRORIL2 が 8 月に開催した現地の精米業者、コメ販売店を対象とした光選別機を使ったコメの選別デモンストレーション(着色米や被害米の除去)の様子を取材しました。

デモに参加した現地の精米業者の話によれば、コートジボワールでは通常の精米の選別は女性が手作業で行っており、労賃は 1 キロあたり約 2 円と安価ですが、時間が掛かったり、夾雑物が十分に除去できていなかったりするという課題があります。そのため、光選別機を導入して作業効率を向上させたいとのことです。

デモの結果、精米業者は光選別機の性能の高さを認識し、品質向上に必要であることを理解していました。しかしながら、価格の高さが購入を思い留まらせる 1 つの要因だと言います。PRORIL2 では、今後精米業者に実際に FMS-2000 を使用してもらうことで、コートジボワールの精米品質の課題を解決できることをアピールしていく計画です。こうした活動が少しでも本邦企業製品への購買意欲を向上させられるよう、AFICAT でも活動の様子を引き続き取材していく予定です。



FMS-2000 の用途・使用方法を説明する PRORIL2 のカウンターパート職員ンデボ氏(機械の右隣)と説明に聞き入る精米業者、販売店からの参加者



現地の精米所の様子。

**【コートジボワール現地情報#1】** コートジボワールの農業は労働人口の 40%、GDP の 21%を占める重要セクターです。2019 年の食用作物生産量は、ヤム、キャッサバ、カカオ豆、サトウキビ、コメ、カシューナッツの順に多く、カカオ豆とカシューナッツ(殻付)は世界第 1 位の生産量です。コメの生産地は大きく分けて、灌漑地(3.7%)、天水低湿地(47.7%)、天水畑作地(陸稲)(48.6%)の 3 つに分類され、平均収量(籾付)は灌漑地が 4.0t/ha、天水低湿地が 3.2t/ha、陸稲が 1.4t/ha となっています。農機の利用は、サトウキビ、アブラヤシを生産する大規模農園がほとんどで、主にトラクターでトラレーをけん引し、果房の運搬に利用されています。一方コメ生産の機械化は遅れています。機械台数が少ないため適期作業が遅れること、収穫時の損失も含め生産性が低いこと、小規模区画が多く、農地整備時に伐採された切り株なども残っているため機械の進入や高能率な作業が難しいこと、オペレーターの技能や経験不足により、機械の適切な操作や定期的なメンテナンスができず、機械が早く故障してしまっていることなどが課題として挙げられています。(出所: JICA「[アフリカ地域先進農業技術の導入促進に係る基礎情報収集・確認調査](#)」)



## 編集後記

記事を読んでいただきありがとうございます。皆様には英語版のニュースレター(タンザニア版とナイジェリア版)も届いていると思います。本邦向けと各国向けでは違った内容の記事を掲載していますので、英語版もお楽しみください。現地の方々からもニュースレターを読んだ感想が届いており少しずつですが、情報が伝わっているのを感じます。

新たに AFICAT をご活用いただける本邦企業の方を、随時募集しております。AFICAT にご関心がある方は、お気軽に以下の連絡先にお問い合わせください。

編集・問合せ

(株)かいはつマネジメント・コンサルティング

魚住・狩野・弓削田

Tel: 03-5791-5083 Mail: [aficat.team@kmcinc.co.jp](mailto:aficat.team@kmcinc.co.jp)

AFICAT HP:

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

※ニュースレターの新規登録・登録解除をご希望の方は上記の宛先までお名前、所属先、メールアドレスをご連絡ください。

※AFICAT のご活用に関するお問い合わせも、上記の宛先までご連絡下さい。